

区内15の宗教者団体が一堂に会し、 被災地支援活動を実施しました！

17日、JR阿佐ヶ谷駅周辺で区内15の宗教者団体が一堂に会し、東日本大震災で被災された方々を支援するため、宗教の垣根を越えて募金活動を行いました。また、会場では東北物産展も同時に開催。福島県南相馬市からは県立小高商業高等学校の生徒たちが自ら商品開発した物産を販売し、元気に頑張る姿を見せてくれました。（主催：杉並区宗教者懇話会）

杉並区宗教者懇話会は、区内の各派宗教者間の交流を通じて相互理解と地域発展に貢献することを目的に1987年に発足。現在、区内の47の宗教団体が参加しています。

本で行われた東日本大震災支援活動は、今なお厳しい環境の中で生活されている被災地の方々を想い、被害を風化させることなく継続的に支援を行っていかうと、平成23年11月に初めて実施され、今回が2度目の開催となります。今回は懇話会の参加団体から15団体、37人が会場へ駆けつけました。午前10時、JR阿佐ヶ谷駅南口広場で募金活動が始まると、各宗派の正装を身につけた参加者たちは、道行く人々に一斉に協力を呼びかけました。



募金に協力した50代の女性は「いろいろな宗教や考え方があっても、被災地を支援するという1つの目的を持って、皆さんで協力してこのよう活動ができるというのは素晴らしいことだと思います。」と話していました。

また、同時に開催された物産展には福島県南相馬市や宮城県気仙沼市、石巻市など震災で大きな被害を受けた地域から5店舗が出店。各地域自慢の特産品がずらりと並び、会場は多くの来場客で賑わっていました。中でも、福島県南相馬市のブースには地元、県立小高商業高等学校の商業研究部の生徒たちも参加し、生徒自らが地元企業の協力を得て開発した人気商品「小高だいこんかりんとう」を販売していました。部長の志賀葵（しが・あおい）さん（17）は、「地元の皆さんにご協力いただきながら、地域の特産品を使った商品の開発を行っています。大変なこともあります。たくさんの方と関わる機会も多く、とても充実しています。今日のような販売の機会を大事にしながら、少しでも地元の活性化の役に立てたら良いですね。」と笑顔で話してくれました。

イベントを主催した杉並区宗教者懇話会の事務局責任者、有井康雄（ありい・やすお）さんは、「最も大切にしているのは、私たちは被災地のことを忘れてはいけないと呼びかけることです。被災地は依然として厳しい状況が続いています。被害を風化させることなく、これからもこのような支援を続けていきたいと思っています。」と話しました。

本日寄せられた義援金は杉並区を通して福島県南相馬市へ贈られ、物産展の収益はそれぞれの地域の活性化に活用されるということです。

【報道機関問い合わせ先】

杉並区宗教者懇話会 事務局責任者 担当：有井さん 電話 03-5340-3381